

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①重点研究テーマを「かわりの中で、自分の思いや考えを進んで表現できる子の育成」とし、子どもたちが主体的に、「人」や「もの」と関わり合いながら、課題を見つけ解決していけるようにする。②育てたい資質能力を明確にし、ICT機器等を効果的に活用し、主体的に学習が進められるようにする。	①重点授業研究会では、様々な対話の形を模索することができた。発達段階に応じた、子どもが対話したいと思えるような材やしかけについて研究が深まった。②授業で必要に応じて、ICT機器を活用して学ぶことができた。情報リテラシーに関しては、様々な場面で指導していく必要がある。	B
心の教育	①地域や人とのつながりを大切にし、関わる機会を多く設け、他の人の考えや気持ちを想像したり、共感的に理解したりする経験を通して、他者の思いに寄り添う心情を育てる。②ふれあい班などの異学年交流を計画的に進め、年齢や立場が違う者同士が互いに思い合ったり、認め合ったりするよさが実感できるようにする。	①各学年、地域や人とのつながりを大切にした授業を計画し、相手意識をもって活動を行うことができた。また、人権週間でも様々な方と関わり、相手の気持ちになって理解しようとする姿が見られた。②年間を見通して計画を立て、それに従って計画的にふれあい班活動を行うことができた。異学年同士がお互いのことを考えながら声をかけたり活動したりする姿が見られた。思い合ったり、認め合ったりすることもできつつある。来年度も引き続き進めていきたい。	A
健康安全教育	①児童会を中心に、縄跳び等の体力向上に向けた取組を工夫して行い、体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。②定期的に避難訓練を行うことで児童の危機管理意識を高め、「自分の命を自分で守る」ことができるようにする。③保健教育や食育などを通して規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培う。	①体育・保健委員会を中心に1年間を通して体力向上・維持を図るため体幹トレーニングやストレッチ、縄跳びを実践した。今後も継続して取り組んでいく。②定期的な避難訓練により、災害時の対応については理解することができたが、自身の命を守ることへの意識は、今後も高める必要がある。そのため、次年度以降も訓練を続けていくべきと考える。③学校保健委員会や給食週間を中心に、規則正しい生活習慣を意識するとともに、バランスの良い食生活にも目を向けていけるように指導した。引き続き推進していく。	B
地域学校協働活動	①6年間で育成を目指す資質・能力が確実に身に付くよう、地域、家庭、学校が目標を共有し、充実した教育活動を展開するために、学校運営協議会、地域連携協働本部と設置し、地域の方の教育活動の参画をさらに推進する。	①学校運営協議会を発足し、地域、家庭、学校で目指す児童の姿を共有することができた。創立150周年に向けて、150周年委員会を設置し、地域と学校で協力して、150周年を祝う準備を進めることができた。	A
特別支援	①一人ひとりの特性や習熟度に応じた学習計画を立て、「チャレンジ教室」と「ステップ教室」において計画的に指導や支援を行う。②特別支援教育や児童理解の研修を行い、支援を要する児童への理解を深め、適切な支援や手立てについて職員の共通理解を図るとともに多様なニーズに応じた支援ができるようにする。	①一人ひとりの特性や習熟度に応じ、児童や保護者の思いを聞きながら共に学習計画や目標を立てた。チャレンジ教室では、苦手な部分の学習支援を行い、達成感を実感できるようにした。ステップ教室では、落ち着いた学習環境の中で自分のペースに合った学習ができるようにした。②研修では、児童の行動に焦点を当て、どのような支援が適切であるのかを情報共有・共通理解を行った。	B
児童指導	①多面的に児童理解を深めるために、チーム学年経営や教科担任を取り入れる。また、学年研、職員会議などの時間に情報共有したり、「YPアセスメント」を取り入れたりして職員全体で支援・指導にあたる。②「都岡小学校のやくそく」を整え、職員全員で共通した指導を行う。	①チーム学年経営や教科担任を取り入れたことで複数の視点で児童理解をすることができた。②「都岡小学校の約束」に沿って共通した指導を行った。また、各月の生活目標を児童に周知し、全校で取り組んだ。	B
いじめへの対応	①年に複数回、学校生活に関するアンケートを児童向けに行い、子どもの困り感をキャッチできるようにする。②いじめ防止に関わる研修を行うことで職員がいじめに対するアンテナを高め、いじめの未然防止や早期発見につなげる。③いじめ防止対策委員会がいじめ認知した件について共有し、再発防止対策等話し合う。	①複数回、児童向けアンケートを実施し、一人ひとりの子どもと面談をし、困り感を素早くキャッチできるようにした。②研修では、いじめについての共通理解を図った。また、子どもの行動に焦点を当て、指導方法について情報共有を行い、未然防止・早期発見ができるようにした。③いじめ防止対策委員会を月1回開いたり、事案が発生したときは臨時で集まり組織的に対応したりするようになった。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①校務分掌の明確化、細分化を図り、会議時間の縮減や効率化ができるようにする。②ミドルリーダー研修、メンター研修等職員研修の充実を図り、スキルアップを図る。③環境整備、会議や作業をするスペースの確保、時間のマネジメントを行い、意識改善と働き方改革を進める。	①会議時間を削減するために、校務分掌を整理して、会議の回数が減らせるように工夫した。②メンター研修を自主的、計画的に行い、教職員間でスキルアップを図ることができた。主幹教諭を中心に自分たちで学校をよくするための運営を進めることができた。③日課表を工夫するなど、タイムマネジメントをしっかりと行い、時間を意識して業務に取り組めた。	B
ブロック内評価後の気付き	中学校ブロック内共通テーマである「分かりやすい授業」の実現に向けて、今年度も継続的に取り組んできた。合同授業研究会を通して、各教科等の指導の重点について確認し合うことができた。その結果、他校の様子がわかり、それぞれの良さを本校の研究などに生かすことができた。「自主性を身につけ、互いの良さを認め合う心豊かな子ども」の姿を授業の中で育成するために、今後も、「分かりやすい授業」を目指して、効果的な授業の在り方をブロックで引き続き協議し、より児童の実態に即した学習展開を考えていく。		
学校関係者評価	今年度より学校運営協議会が発足し、より一層地域と連携しながら教育活動の実践や振り返りを行うことができた。また、地域の方々と創立150周年委員会を設置し、地域と学校で協力して、150周年を祝う準備を進めることができた。保護者からは、150周年やその他の行事に向けて意欲的に取り組む姿勢や当日に力を発揮して輝く児童の姿が多く見られたことや、登下校時の明るい挨拶が地域の皆さんに喜ばれているという高評価をいただいた一方で、外で遊んだり、運動したりする機会が減っているという意見が見られた。来年度も様々な意見を生かし学校運営を行っていく。		
中期取組目標振り返り	創立150周年記念行事を見据えて各学年が年間を見通し、児童が互いに関わり合いながら、自分にもできるという自信と、人から認められてうれしいという気持ちを育てるような教育活動を展開することができた。また、児童自身が「地域の中で生きる子ども」であるということ意識し、自分の思いや考えを素直に表現しようとする力がついた。学校運営協議会が発足し、地域学校コーディネーターとともに地域学校協働活動も順調に進んでいる。組織と日課表の再編成に伴って、職員の働き方改革が進み、時間外勤務時間が大幅に減少した。いじめについては専任を中心に職員が常にアンテナを高くもち、未然防止と組織的対応に成果があった。		